第33回
日本産科婦人科栄養・代謝研究会

プログラム・抄録集

NUTRITION & METABOLISM

会期：平成21年7月31日（金）～8月1日（土）
会場：金沢市アートホール（ポルテ金沢6F）

会 長　牧野田　知
金沢医科大学　生殖周産期医学

ご　挨　拶

第33回日本産科婦人科栄養・代謝研究会を金沢医科大学生殖周産期医学（産科婦人科）部門が担当させていただくことを、教室員一同とともに大変光栄に存じております。

例年この研究会に参加させていただくたびに、新たな視点に立ったユニークな研究の数々を知り、いつも大きな刺激を受けて参りました。今回の研究会でも参加された皆様にとって、何か一つでも思い出に残る出来事があることを願っております。

今回は特別講演を2題準備させていただきました。特別講演Iは京都・高雄病院の江部康二理事長による「栄養代謝と糖質制限食」というお話で、ひょっとすると米を中心としたわが国の食糧政策を大きく揺るがす講演になるかも知れません。東京大学の佐々木敏教授の特別講演II「妊娠期の食事管理の理論と技術：体重管理を超えて」も、現在広く行われている体重管理を中心とした妊娠期の食事指導のあり方にエビデンスがあるのかを問う問題提起になるかと思います。シンポジウムでは「21世紀の妊産婦における食育」をテーマに、新しい世紀に入って10年目になった現時点でのやせ、肥満、糖代謝異常、妊娠高血圧症候群などでの食育について論じてもらいます。ランチョンセミナーでは福岡大学の三宅吉博准教授に栄養疫学の知見から妊婦・乳児の栄養とアレルギー疾患との関連についてお話いただきます。なお、ランチョンセミナーと特別講演IIにつきましては、学会本部のお許しを得て、広くコ・メディカルの方々にも公開させていただきますので、ご了承の程お願い申し上げます。

夏の盛りの金沢は、兼六園などを見て回るには暑すぎると思います。エアコンの効いた会場で栄養・代謝についての知識を深めて参りましょう。

平成21年盛夏

第33回日本産科婦人科栄養・代謝研究会
会長　牧野田　知
（金沢医科大学生殖周産期医学部門）

第33回日本産科婦人科栄養・代謝研究会

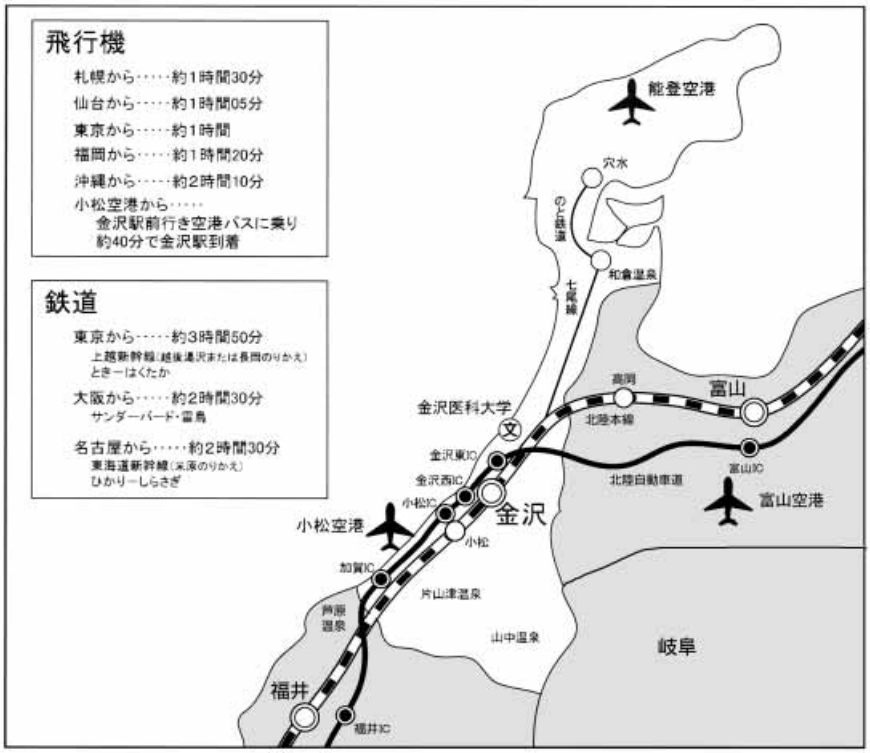
会長：牧野田　知
　　金沢医科大学生殖周産期医学（産科婦人科学）部門教授
会期：2009年7月30日（木）～ 8月1日（土）
会場：金沢市アートホール（JR金沢駅前ポルテ金沢6F　Tel. 076−224−1660）
　　ホテル日航金沢（〒920-0853　金沢市本町2丁目15番1号　Tel. 076−234−1111）
　　（金沢市アートホールとホテル日航金沢は同一建物）

日　　程

7月30日（木）
18 : 00－19 : 00　幹事会（ホテル日航金沢 5F 松・竹の間）
7月31日（金）
08 : 30－09 : 30　常任理事会（ホテル日航金沢5F 松・竹の間）
10 : 00－16 : 00　研究会（金沢市アートホール）
10 : 00－12 : 00　一般演題Ⅰ・Ⅱ
12 : 00－13 : 00　ランチョンセミナー［共催：大塚製薬、GMR］
「女性の栄養：妊婦・乳児の栄養とアレルギー疾患の関連：わが国における栄養疫学研究からの知見」
福岡大学　三宅　吉博　先生
13 : 00－15 : 00　シンポジウム
「21世紀の妊産婦における食育」
15 : 00－16 : 00　特別講演Ⅰ
「栄養・代謝と糖質制限食」
高雄病院　江部　康二　先生
18 : 00－20 : 00　懇親会（ホテル日航金沢 4F 鶴の間）
8月1日（土）
08 : 30－09 : 30　理事会（ホテル日航金沢 5F 松・竹の間）
09 : 45－13 : 00　総会・研究会（金沢市アートホール）
09 : 45－10 : 00　総会
10 : 00－12 : 00　一般演題Ⅲ・Ⅳ
12 : 00－13 : 00　特別講演Ⅱ（昼食付き）［共催：大塚製薬、GMR］
「妊娠期の食事管理の理論と技術：体重管理を超えて」
東京大学　佐々木　敏　先生

会場へのご案内

県外からお越しの場合



会場周辺図

お　知　ら　せ

1. ご参加の方々へ

(1) 参加登録受付で参加手続きを行ってください。

(2) 参加費8000円をお支払いの上、名札に所属・氏名をご記入ください。
学生及び初期研修医は無料です。

(3) 会場では必ず名札をおつけください。

(4) 産婦人科の先生には専門医シールおよび日産婦医会シールが配布されますので、受付でお受け取りください。

2. 演者の先生方へ

(ア) 発表形式

(1) パワーポイントによるPC発表となります。スライドやビデオは使用できません。

(2) 会場へは、USBメモリーでご持参ください。
CD-RW、MO、その他のメディアは受け付けませんのでご注意ください。
可能な限りWindowsをご使用ください。Macintoshをご使用の方はあらかじめWindows版パワーポイントに変換してください。
動画を使用される場合は、バックアップとしてPCを持参されることをお勧めします。

(3) 講演開始30分前までにPC受付にて発表データの受付を済ませてください。

(4) PC受付のパソコンでデータ修正等を行うことはご遠慮ください。修正は事前に済ませてくださるようにお願いします。

(イ) 発表用データの作成方法

本学術集会で使用可能なデータ形式は次の通りです。
Windows XPもしくはVista：Power Point2000、2003、2007（動画ファイルMedia Playerで再生可能なもの）

(1) フォントはWindowsに標準装備されたものをお使いください。
（MS明朝、MSゴシック、MS P明朝、MS Pゴシック、Times New Roman、Century等）

(2) ファイル名には演題番号・筆頭演者名を入れてください。
発表データに他のデータ（静止画・動画・グラフ等）をリンクされている場合は、必ず元のデータと同じフォルダに保存してご持参ください。

(3) 学会側のPCに保存した各演者の発表データは、学会終了後に消去いたします。

(ウ) 二次抄録について

(1) 会誌掲載のため、発表される方は二次抄録をご持参いただき、当日抄録受付にご提出ください。

3. シンポジウム演者の先生方へ

(1)発表時間は質疑応答を含めて20分とさせていただきます。

(2)全員の発表が終了した後に総合討論を予定いたしておりますので、ご協力をお願いいたします。

4. 一般講演の先生方へ

(1)発表時間8分、質疑応答は4分とさせていただきます。

(2)次の演者は、次演者席で待機していただきますようお願いいたします。

5. 座長の先生方へ

(1)円滑な進行にご協力をお願いいたします。

(2)次のセッションの座長の先生は、次座長席で待機していただきますようお願いいたします。

6. 懇親会について

(1)懇親会を7月31日（金）18:00からホテル日航金沢4F 鶴の間にて予定しております。

(2)懇親会費は無料ですので、名札をつけてご出席ください。
多数のご参加をお待ち申し上げております。

第33回日本産科婦人科栄養・代謝研究会　日程表

	7月31日（金）		8月1日（土）	
8：00 9：00	08：30−09：30	常任理事会 (ホテル日航金沢 5F 松･竹の間)	08：30−09：30	理事会 (ホテル日航金沢 5F 松･竹の間)
10：00			09：45−10：00	総会
11：00 12：00	10：00−12：00	一般演題Ⅰ・Ⅱ	10：00−12：00	一般演題Ⅲ･Ⅳ
13：00	12：00−13：00	ランチョンセミナー 三宅 吉博　先生	12：00−13：00	特別講演Ⅱ(昼食付き) 佐々木 敏　先生
14：00 15：00	13：00−15：00	シンポジウム 「21世紀の妊産婦 における食育」		
16：00	15：00−16：00	特別講演Ⅰ 江部 康二　先生		
17：00 18：00				
19：00	18：00−20：00	懇親会 (ホテル日航金沢 4F 鶴の間)		
20：00				

7月31日（金）

一般演題Ⅰ（10:00～11:00）

座長　岡山大学　　平松　祐司
浜松医科大学　金山　尚裕

１．human thioredoxin-1（hTRX-1）による抗酸化系機構が出生後の糖代謝に及ぼす影響－離乳期と成獣期における検討

三重大学

梅川　　孝、杉山　　隆、張　　凌雲、村林　奈緒、佐川　典正

２．マウス母獣絶食時におけるチオレドキシン結合蛋白(TBP-2)の胎仔血糖調節機構に対する検討

京都大学

最上　晴太、由良　茂夫、巽　　啓司、藤井　　剛、藤田　浩平、角井　和代、近藤　英治、小西　郁生

３．肥満妊娠におけるインスリン抵抗性発症機序の解析と胎仔発育への影響についての検討
－高脂肪食負荷肥満妊娠モデルマウスを用いて－

三重大学

村林　奈緒、杉山　　隆、張　　凌雲、梅川　　孝、神元　有紀、佐川　典正

４．妊娠糖尿病は増加したか？

埼玉医科大学

水上　順智、西林　　学、三木　明徳、板倉　敦夫、石原　　理

５．耐糖能異常と胎児異常

北海道大学

森川　　守、山田　　俊、山田　崇弘、島田　茂樹、小山　貴弘、金野　陽輔、荒木　直人、長　　和俊、櫻木　範明、水上　尚典

一般演題Ⅱ（11:00～12:00）　　座長　徳島大学　苛原　　稔
日本大学　山本　樹生

６．妊娠高血圧腎症発症予防としての葉酸+L-アルギニン持続投与の有用性の検討

名古屋市立大学、同　薬理[1)]

鈴木　佳克、山本珠生[1)]、杉浦　真弓、伊藤猛雄[1)]

７．妊娠高血圧症候群妊婦で産生亢進する活性酸素の発生機序
－ヒポキサンチン～尿酸代謝を中心に－

愛知医科大学

藤牧　　愛、篠原　康一、森　　稔高、渡辺　員支、若槻　明彦

８．妊娠中の母体血中FreeT4低下が与える児の発育、周産期予後への影響

秋田大学、秋田市立総合病院[1)]、鹿角組合総合病院[2)]

佐藤　　朗、山本博毅[1)]、佐藤敏治[2)]、小西　祥朝、清水　　大、小川　正樹、田中　俊誠

９．アルコール依存症による慢性膵炎を合併した薬物依存症妊婦の管理経験

奈良県立医科大学

小山　恵美、成瀬　勝彦、佐道　俊幸、吉田　昭三、野口　武俊、伊東　史学、重光　愛子、北中　孝司、大井　豪一、小林　　浩

10．妊娠・授乳期におけるタクロリムス代謝の検討／生体肝移植後の2症例の経験

大阪市立大学、同　肝胆膵外科[1)]

安部佳代子、松本万紀子、延山　裕之、中野　朱美、橘　　大介、角　　俊幸、石河　　修，久保正二[1)]

ランチョンセミナー（12:00～13:00）　　座長　大阪市立大学　石河　　修

女性の栄養：妊婦・乳児の栄養とアレルギー疾患の関連：わが国における栄養疫学研究からの知見

福岡大学

三宅　吉博

〔共催：大塚製薬・ジェンダーメディカルリサーチ〕

シンポジウム（13:00～15:00）　　座長　宮崎大学　　池ノ上　克

「21世紀の妊産婦における食育」　　岡山中央病院　江口　勝人

S-1　妊婦の栄養：オーバービュー

三重大学　　杉山　　隆

S-2　やせ妊婦の至適体重増加量を探る

日本大学　　永石　匡司

S-3　糖代謝異常合併妊婦に対する食育

岡山大学　　増山　　寿

S-4　食育の視点から見た妊娠高血圧症候群

浜松医科大学　　伊東　宏晃

S-5　肥満妊婦における食育

金沢医科大学　　富澤　英樹

特別講演Ⅰ（15:00～16:00）　　座長　三重大学　佐川　典正

栄養・代謝と糖質制限食

高雄病院

江部　康二

8月1日（土）

一般演題Ⅲ（10:00～11:00）

座長　聖マリアンナ医科大学　石塚　文平

東京医科歯科大学　　久保田俊郎

11．妊娠羊子宮内感染モデルにおける母獣・胎仔血中サイトカインの動態と好中球エラスターゼ阻害剤の効果

都立広尾病院[1)]、日本大学[2)]、東京女子医科大学八千代医療センター[3)]

渡邉征雄[1)2)]、正岡直樹[3)]、中島義之[3)]、山本樹生[2)]

12．糖尿病合併妊娠の腟内細菌叢と早産

金沢医科大学

高木　弘明、藤田　智子、岡　　康子、早稲田智夫、

富澤　英樹、藤井　亮太、牧野田　知

13．オキシトシンによる抗不安作用の分子メカニズムの解明を目指して

岡山大学、同　細胞生理学[1)]、熊本大学分子生理学[2)]

沖本　直輝、富澤一仁[2)]、松井秀樹[1)]、平松祐司

14．妊娠中体重増加と加齢が分娩進行に与える影響の検討

東京慈恵会医科大学[1)]、国立成育医療センター[2)]

池谷美樹[1)2)]、田中忠夫[1)]

15．BMIで分類した帝王切開術における創部離開予防策

埼玉医科大学

仲神　宏子、菊地真理子、大澤　洋之、板倉　敦夫

一般演題Ⅳ（11:00～12:00）　　座長　東京慈恵会医科大学　田中　忠夫
広島大学　工藤　美樹

16．若年女性における乳製品摂取および朝食欠食習慣が骨密度獲得に及ぼす影響について

東京女子医科大学

吉形　玲美、尾上　佳子、中野　千枝、折戸　征也、
石谷　　健、黒田　龍彦、橋本　和法、太田　博明

17．ビタミンBおよびD摂取は若年女性の骨質を強化する

東京女子医科大学

尾上　佳子、黒田　龍彦、中野　千枝、折戸　征也、
吉形　玲美、石谷　　健、橋本　和法、太田　博明

18．2-Methoxyestradiol（2ME$_2$）の膵β細胞保護作用の検討

順天堂大学、同　代謝内分泌内科[1)]

依藤　崇志、黒川　敦子、竹田　省、内田豊義[1)]、
藤谷与士夫[1)]、綿田裕孝[1)]

19．葉酸サプリメント摂取者と非摂取者における、妊娠初期から末期の葉酸摂取量と血清葉酸値・血漿総ホモシステイン値の変化

国立保健医療科学院、東京医科歯科大学[1)]

瀧本　秀美、林　　芙美、草間かおる、石橋智子[1)]、
鳥羽三千代[1)]、宮坂尚幸[1)]、久保田俊郎[1)]

20．妊婦の総エネルギー需要量に関する検討－蓄積エネルギーを構成する体脂肪エネルギーを中心に

兵庫県立柏原病院、日本医科大学[1)]、三重大学[2)]、北里大学[3)]、
タニタ体重科学研究所[4)]

上田　康夫、丸尾　原義、鈴木　嘉穂、茆原弘光[1)]、
鴨井青龍[1)]、河村　堯[1)]、竹下俊行[1)]、杉山　隆[2)]、
佐川典正[2)]、豊田長康[2)]、池田泰裕[3)]、田代真希[3)]、
海野信也[3)]、本田由佳[4)]

特別講演Ⅱ（12:00～13:00）　　座長　東京女子医科大学　太田　博明

妊娠期の食事管理の理論と技術：体重管理を超えて

東京大学

佐々木　敏

〔共催：大塚製薬・ジェンダーメディカルリサーチ〕

抄　　録

特　別　講　演
ランチョンセミナー

略　歴

1950年　京都府生まれ、広島育ち。
1968年　広島・修道高校卒業。
1968年　京都大学医学部入学。
1974年　京都大学医学部卒業、京都大学胸部疾患研究所で研修。
1976年　同文部教官助手。
1978年　医局長として(財)高雄病院勤務。
　　中国医学から出発し独自の展開をとげ漢方臨床実践を行う。
1984年　絶食療法、食養生導入。
1988年　心理療法導入。
1994年　7月から高雄病院副院長就任。
1994年　10月「アトピーネットワーク・リボーン」を設立し、運営委員代表として参加。
1994年　11月からバンド「ターニング・ポイント」のリードボーカルとして毎月一回、
　　第三金曜ライブを展開。
1999年　高雄病院に糖質制限食導入。
2000年　2月から高雄病院理事長就任。
2001年　糖尿病治療食として糖質制限食に高雄病院全体で本格的に取り組む。
2002年　糖尿病発症。
2009年　1月NPO法人糖質制限食ネット・リボーン設立、理事長に就任。

現在漢方治療を中心に西洋医学、糖質制限食・絶食療法・食養生を取り入れ幅広い立場から臨床活動を行っている。

著　書　「糖質制限食冬のレシピ」(東洋経済新報社)2008年
「糖質制限食秋のレシピ」(東洋経済新報社)2008年
「主食を抜けば糖尿病は良くなる実践編」(東洋経済新報社)2008年
「糖質制限食春のレシピ」(東洋経済新報社)2007年
「糖質制限食夏のレシピ」(東洋経済新報社)2007年
「糖尿病が良くなるごちそうレシピ」(東洋経済新報社)2006年
「主食を抜けば糖尿病は良くなる」(東洋経済新報社)2005年
「ドクター江部のアトピー学校①②」増補・改訂版(東洋経済新報社)2005年
「プロトピックの上手なぬりかた」(アトピー・ネットワーク・リボーン)2003年
「Dr江部のアトピー学校①②」(NECクリエイティブ)2001年
「ステロイドの上手なぬりかた・やめかた」アトピー性皮膚炎に対して
(アトピー・ネットワーク・リボーン)1998年
「アトピー治療の新しい道」(風濤社)1996年
「平成アトピー症候群」(産調出版)1992年

共著書　「あなたにあったアトピー治療」(NECクリエイティブ)2000年
「医者と本音で話がしたい」(エー・ジー出版)1998年
「夫を若死にさせる12章」(産調出版)1992年
「アトピーアレルギー読本」(せせらぎ出版)1990年

共訳書　「温病学」(東方書店)1989年

特別講演Ⅱ

妊娠期の食事管理の理論と技術：体重管理を超えて

東京大学大学院医学系研究科公共健康医学専攻
社会予防疫学分野（教授）　　佐々木　敏

妊娠期は健康であるにもかかわらず、①医療者と接する、②自らの生活を健康という面から考える機会がある、という点で人生の中でも特異な位置にある。これは、食習慣という極めて日常的な行為についても同様であり、それだけに大切な時期であり、この機会を最大限に活かすべきと考えられる。

妊娠期の栄養管理・栄養指導については、現在、大きな問題が3つあるのではないかと思う。ひとつは、体重管理（エネルギー管理）に重点が置かれており（これ自体は大変重要なことであるが）、他の栄養管理が相対的に手薄になっているのではないかという問題。2つめは、栄養指導が十分に科学的な根拠に基づいて行われているのかといった問題、すなわち、妊婦の栄養指導の基礎資料となる研究の数は十分にあり、その質は十分に高いかという問題である。3つめは、個々の妊婦の栄養素摂取量を見積もらずに、一律な食事指導が行われているのではないかという問題である。ここでは、主に2つめと3つめの問題を取り上げ、その問題点を明らかにするとともに、その改善策を考えてみることにしたい。

２つめの問題：たとえば、妊婦のエネルギー摂取量を調べた論文によると、その平均値は1869kcal/日（全妊娠期、秤量式食事記録法による）であり（Takimoto, et al. J Obstet Gynaecol Res 2003; 29: 96-103）、別の研究では1723～1793kcal/日（各妊娠期、自記式食事歴法質問票による）と報告されている（Watanabe, et al. Eur J Nutr 2008; 47: 341-7）。これらの値は、妊婦の推定必要エネルギー（日本人の食事摂取基準2005年版）に比べると相当に低く、非妊娠女性の推定必要エネルギーと比べてもかなり低い。これは摂取量が実際に少ないのではなく、何らかの原因による過少申告に起因するものが大きいと現在では解釈されている。しかしながら、それを妊婦で観察した研究はわが国には存在しないようである。この問題は、妊婦にとって特に重要なマクロ栄養素であるたんぱく質においても同様で、過少申告の問題を考慮したうえで妊婦のたんぱく質摂取量を測定した報告はわが国には存在しないようである。同様に、たとえば、妊婦における鉄摂取量（ならびに関連する栄養素の摂取量）と鉄欠乏性貧血の出現危険との関連を検討した報告（論文）も存在しないようである。日本人非妊娠若年女性においては、鉄摂取量（ならびに関連する栄養素の摂取量）と鉄欠乏性貧血の出現危険度との間には有意な関連が認められないことが詳細な研究によって最近報告されている（Asakura, et al. Public Health Nutr [in press]）。しかし、妊婦においてどうかについての知見はわが国には存在しないようである。

３つめの問題：習慣的に摂取しているエネルギーならびに各栄養素量を見積もることはかなり難しく、高度な理論と技術を要する。しかしながら、妊婦への食事指導のみならず、臨床現場では食事記録法と簡易な食事アンケートのいずれかが広く用いられており、両者にも無視できない短所を有している。また、多くの場合には、個々の妊婦の摂取量の見積もりはせずに、個々の献立や食品が含有する栄養素量の紹介に留まっている。これは、個

人の特性に応じて対応するという臨床の基本に従っていないことになる。だからといって、そのためだけに長い時間がかけることも担当者（栄養士）に高い労賃を払うこともできない。ここで求められるのは、その精度が科学的に確認され、長所と短所が明らかにされた、比較的に安価で、妊婦にも担当者（栄養士）にも負担の少ない食事アセスメント法である。また、そのような方法の正しい使い方に担当者が習熟することである。

わが国における妊娠期の食事管理に関しては、残念ながら、十分な質を有する研究が十分な数そろっているとは言い難いのではないだろうか。かつ、たとえ、そのような研究成果がそろってきたとしても、現時点においては、それを十分に活用できる知識も技術も現場には必ずしも備わっていないように思われる。妊娠期の食事管理の問題は、その解決とサービスの向上に向けて、研究面と実践面の両面を絶えず比較しながら、早急かつ精力的に進めていく必要が大きいと考えられる。

学　歴

昭和51(1976)年3月　三重県立津高等学校普通科卒業
昭和56(1981)年3月　京都大学工学部資源工学科卒業
昭和58(1983)年3月　京都大学工学部修士課程中退
平成元(1989)年3月　大阪大学医学部卒
平成 6(1994)年3月　大阪大学医学部大学院博士課程修了 医学博士(公衆衛生学)
平成 6(1994)年3月　ルーベン大学医学部大学院(ベルギー)博士課程修了 医学博士(疫学)

職　歴

平成7(1995)年 5月～平成 8(1996)年9月　名古屋市立大学医学部公衆衛生学教室助手
平成8(1996)年10月～平成14(2002)年3月　国立がんセンター研究所支所
臨床疫学研究部室長
平成14(2002)年1月～平成18(2006)年3月　独立行政法人国立健康・栄養研究所
栄養所要量策定企画・運営担当リーダー
平成18(2006)年4月～平成19(2007)年9月　独立行政法人国立健康・栄養研究所
栄養疫学プログラムプログラム・リーダー
平成19(2007)年4月～現在まで　東京大学大学院医学系研究科公共健康医学専攻
社会予防疫学分野教授
平成16(2004)年4月～平成19(2007)年3月　お茶の水女子大学大学院教授(客員)
平成17(2005)年5月～現在まで　女子栄養大学教授(客員)
平成18(2006)年4月～現在まで　天使大学大学院非常勤講師(客員)
平成18(2008)年4月～現在まで　山口県立大学教授(客員)

研究テーマ

予防医学、公衆衛生学、人間栄養学、栄養疫学

主要著書

1) 佐々木敏、等々力英美編著．EBN入門 －生活習慣病を理解するために－、第一出版、2000.
2) 佐々木敏.Evidence-based Nutrition EBN 栄養調査・栄養指導、医歯薬出版、2001.
3) 佐々木敏.わかりやすいEBNと栄養疫学、同文書院、2005.

ランチョンセミナー

女性の栄養：妊婦・乳児の栄養とアレルギー疾患の関連：わが国における栄養疫学研究からの知見

福岡大学医学部公衆衛生学（准教授）　　三宅　吉博

近年、世界的にアレルギー疾患が増加しており、アレルギー疾患のリスク要因及び予防要因の解明は予防医学上、最も重要な課題である。これまでの疫学研究で多くのリスク要因が指摘されている中、食習慣の西洋化がアレルギー疾患の増加に影響している可能性が注目されている。しかしながら、これらの知見のほとんどは欧米の疫学研究から得られたものであり、日本人を対象としたアレルギー疾患の栄養疫学研究のエビデンスは極めて乏しい。

我々は、これまで妊婦や小中学生を対象とした横断研究により、栄養摂取とアレルギー有症率との関連に関する疫学研究成果をいくつか公表した。沖縄県那覇市及び名護市公立小中学生を対象とした「琉球小児健康調査」では、約25000名のデータを用いて、母乳摂取や脂肪酸摂取との関連について調べた。「大阪母子保健研究」では、1002名の妊婦が調査に参加し、脂肪酸や魚介類、野菜、果物、イソフラボン摂取等との関連について報告した。セミナーでは、これらの結果をまとめることとする。

また、最近、胎児期の母体の栄養摂取状況が生まれた子供のアレルギー疾患発症に影響している可能性が指摘されている。欧米の出生前開始前向きコホート研究で、妊娠中の魚介類やビタミンE、ビタミンD摂取が、生まれた子供のアレルギー発症に予防的であることが報告されている。我々は、「大阪母子保健研究」のデータを用いて、わずかではあるがエビデンスを公表した。その成果をセミナーでお知らせしたい。

世界中の栄養とアレルギーに関する疫学研究成果を集めたところで、まだまだ数が少なく、確たるエビデンスを論じる段階ではない。さらには、介入研究の成果も非常に乏しく、サプリメント等を用いて臨床で予防を実践するに至らないことを最後に確認しておきたい。

略　歴

昭和61年 3月	大阪明星学園明星高等学校卒業
平成 5年 3月	防衛医科大学校医学科卒業
平成 5年 4月	医師国家試験合格
平成 5年 5月	京都大学医学部附属病院老年科　臨床研修医
平成 6年 4月	静岡市立静岡病院内科　臨床研修医
平成 8年 4月	京都大学大学院医学研究科内科系専攻　大学院生
平成 9年 4月	九州大学大学院医学系研究科社会医学専攻（転入学）　大学院生
平成12年 3月	九州大学にて博士（医学）の学位授与
平成12年 4月	近畿大学医学部公衆衛生学　助手
平成14年10月	福岡大学医学部公衆衛生学　講師
平成16年 4月	福岡大学医学部公衆衛生学　助教授
平成19年 4月	福岡大学医学部公衆衛生学　准教授
	現在に至る